

協同組合精神を明日につなぐ(組合学校創立 80 周年にあたって)

全国漁業協同組合学校 校長 吉田 博身

今日、2021年10月1日、組合学校は、創立80周年を迎えました。

新型コロナウイルス禍のため、今、学生は、夏休み明け後も引き続き自宅にとどまりオンライン授業に励んでおり、間もなく帰寮し通常の学校生活に戻る予定です。

振り返りますと、10年前の70周年のときも、東日本大震災の年で、4月予定通りの授業開始ができない年でした。組合学校が1941年(昭和16年)10月1日の創立以来、幾多の時代を超えて、校舎・学寮も明石町(築地近く)、江古田(中野区)、柏(千葉県)と移りながら、80年に亘り、2,667名の学生が学び卒業していくことを積み重ねてきたことに改めて歴史の重みを感じます。



全国の漁協系統が自らの経営が厳しい中でも一貫して支え続け、また、心ある多くの講師の先生方が思いを注ぐことによって維持・運営されている組合学校が漁協職員を養成する全国唯一の学校として期待される役割を発揮し、浜の活力に貢献する人材を送り続けることの意味を在校生・卒業生、全国の漁協をはじめとする関係の皆様とともに、この機会に改めて噛みしめたいと思います。

70周年以降の10年間を見ますと、153名の学生が寮生活のもとに学び、全国の浜に巣立ち、今年度は14名の学生が学んでいます。この間、柏に移転してから45年経過し、随所に傷み、古くなっていた1975年竣工の現校舎・学寮の修繕を一通り終え、気持ちの良い勉学・生活環境が整いました。女子学生の入寮受入体制もできました。学生の構成も漁協現職者や漁村出身者に加え、海や釣りが好きといったことを契機に組合学校を知り、入学する学生も増えています。

また、漁協系統において漁協職員の計画的な養成の必要性が認識され、これまでの沖縄県域に続いて、今年度から北海道、三重県域で組合学校生への奨学制度が創設されたほか、現職者の派遣の支援を始めた県域もあり、組合学校への期待の新たな動きと受け止めています。

こうした浜の期待に応えるべく、組合学校は、活力ある漁協づくりに地道に取り組む個性あふれる多様な人材、漁協の仕事への愛着と協同組合精神をもった人材を養成するという役割を引き続き果たして参りたいと思っております。

全国の漁協はじめ関係の皆様におかれましては、組合学校をこれまで以上に活用下さいますことと、引き続きご指導ご鞭撻ご支援を賜りますことを切にお願い申し上げます。